

環境分科委員会のプロジェクト

北東アジア青少年環境シンポジウム 2005

<主な内容>

・ 循環型社会の構築に向けた活動発表・環境学習

14 団体（日本 2、韓国 2、中国 7、ロシア 2、モンゴル 1）が、それぞれが実施しているごみの分別やリサイクル活動等について発表し、参加者間で意見交換を行った。また、日本及び中国からの講師による環境学習講義を行った。

・ 環境保全活動の実施

瀋陽市の会場付近の公園において、参加者が共同で生ごみの堆肥づくり活動を実施した。また、参加者には循環型社会構築のための普及啓発パンフレットを配布し、シンポジウム終了後も引き続き環境保全活動の輪を広げていくことを確認した。

・ 北東アジア青少年環境シンポジウム宣言の採択

参加者一同が、シンポジウム宣言（自然と共生する社会や循環型の社会を目指して、北東アジア地域に住む全ての青少年に対し、環境保全のための取組に積極的に参加するよう呼びかける（別添））を採択した。

1 開催概要

(1) 開催期日 8月21日(日)、22日(月)

(2) 開催場所 中華人民共和国 遼寧省瀋陽市 遼寧友誼賓館 等

(3) 主催者等

主催：富山県、財団法人環日本海環境協力センター、中華人民共和国遼寧省環境保護局
後援：財団法人自治体国際化協会、財団法人松翁記念財団

(4) 参加者（5 か国・12 自治体・36 団体）

中学生 45 名

日 本： 6 名（富山県 6 名）
中 国： 27 名（遼寧省 15 名、山東省 2 名、江蘇省 1 名、河南省 2 名、
河北省 1 名、上海市 2 名、吉林省 2 名、内モンゴル自治区 2 名）
韓 国： 5 名（忠清南道 5 名）
ロ シ ア： 4 名（沿海地方 4 名）
モンゴル： 3 名（セレンゲ県 3 名）

(5) テーマ 循環型社会の構築

(6) 内 容

ア 挨拶 堀 富山県環境政策課長、杜 遼寧省環境保護局長

イ 活動発表（14 団体）

- ・ 廃棄チューインガムが環境に危害を及ぼさないように（遼寧省）
- ・ 学校と地域が協力して進めるエコ活動（富山県：富山市立北部中学校）

- ・ より美しい明日のために（山東省）
- ・ モンゴルにおける環境現状と課題（セレンゲ県）
- ・ “白色ごみ”の処理（遼寧省）
- ・ 環境保全のための私たちの努力（忠清南道）
- ・ 固形廃棄物処理の創意（江蘇省）
- ・ 生活廃棄物のリサイクル及び小学生のための啓発実践活動（沿海地方）
- ・ 私は環境保護の少女（遼寧省）
- ・ ごみを分別回収して資源化する活動（富山県：小矢部市立津沢中学校）
- ・ “電子ゴミ”の危害と回収について（内モンゴル自治区）
- ・ 循環型社会の構築のための活動事例（忠清南道）
- ・ 大自然の真珠 落ち葉に関する研究（遼寧省）
- ・ ジュニア ナチュラリスト ステーションでの廃棄物再利用の取組（沿海地方）

ウ 環境学習

- ・ 「ごみ処理で大切なこと、今すぐできること」(富山県立大学 立田真文 助教授)
- ・ 「廃棄物の測定と計算」(北京市西城区青少年科技館 周又紅 教科研主任)

エ 共同野外環境保全活動（生ごみの堆肥づくり）

オ 北東アジア青少年環境シンポジウム宣言 2005 の採択

北東アジア青少年環境シンポジウム 2005 宣言

2005年北東アジア青少年環境シンポジウムに参加した私たちは、お互いの身のまわりの環境問題を話し合うことにより、環境問題には、それぞれの地域に特有の課題から、地球的規模での課題まで様々な問題があることやその原因が私たちの日常生活と密接な関係があることを認識した。

また、これらの環境問題を改善するためには、より多くの人々が連携協力して取り組む必要があるが、未来を担う青少年としても様々な取組が可能であり、現に多くの青少年が実行していることを知った。このシンポジウムに参加した私たちは、北東アジアの豊かな環境がいつまでも維持されることを願い、北東アジアの全ての青少年がお互いを良きパートナーとして、自然と共生する社会や循環型社会の構築を目指し、ともに環境保全のための取組に積極的に参加することを呼びかける。

2005年8月22日

北東アジア青少年環境シンポジウム 2005 参加者一同

1 シンポジウム開催風景



2 環境学習



3 共同野外環境保全活動（生ごみの堆肥づくり）

